

第2回徳島小松島港港湾脱炭素化推進協議会 議事概要

日 時 : 令和6年3月22日(金) 9:00~10:20
場 所 : 徳島グランヴィリオホテル 1階
開催形式 : 対面形式

【議事概要】

(議事2-1: 徳島小松島港港湾脱炭素化推進計画の検討)

徳島県県土整備部運輸政策課より、徳島小松島港港湾脱炭素化推進計画(素案)の概要について説明

(議事2-2: カーボンニュートラルに関する国の最新動向および支援策について)

四国経済産業局資源エネルギー環境課カーボンニュートラル担当より、GX関連施策の方向性、分野別投資戦略の概要、支援メニューの紹介について説明

<座長>

エネルギーの安定供給は、国レベルの話であるが、民間事業者についても、地域で取り組み、地域に応じて国の施策をうまく活用することが大事。

<構成員1>

水素社会推進法に基づいて、水素・アンモニアのような代替燃料の予算措置を行う予定である。その中で、水素・アンモニアを日本で大量に使えるように支援をしていかないといけない。

<座長>

徳島県でも水素バスや水素ステーションがあるが、技術開発だけではなく、普及し価格が安くならなければ水素・アンモニアなどは一般化されない。

<構成員2>

商用車への支援面について、トレーラーヘッドにまで及んでほしい。徳島小松島港では、出入りが少ないフェリーよりも、毎日出入りしている陸上運送を低炭素へと変えていかないといけないと思われる。

<構成員1>

商用車については、経済産業省と国土交通省の連携事業が行われており、トレーラーヘッドは、特に港湾部門で使用されていると思われるため、国土交通省で検討していただく話になる。ただし、技術開発については、グリーンイノベーション基金事業で、様々な分野での技術開発の推進を支援しているため活用していただきたいと思う。

<構成員3>

トレーラーヘッドへの支援は、非常に重要なご指摘であるため、取り組んで行く必要がある。

<構成員4>

脱炭素の取組は工場だけでは非常に難しい。また、エネルギーを供給している会社としては、例えば、燃料油をLNGに変えていただくというところで、遠回しに脱炭素化に貢献している。

<構成員5>

フェリーに関しては、ゼロエミッション船の検討が最もカーボンニュートラルに発展すると思われる。更新時期を迎える船舶については、早くそのような船舶に切り替えていかないといけない。

<構成員1>

グリーンイノベーション基金事業の中で、アンモニアを燃料にした船舶の建造などの技術開発の支援を行っている。船舶のゼロエミッション化は、実現できていない部分ではあるが、物流に関しては、重要な船舶部門であるため、支援を継続していく。

<構成員6>

再エネの電力をいかに調整するかということは、国全体で捉えていくテーマと思われる。水素・アンモニアのように脱炭素化を推進していくという流れは、発電会社は興味を持っているため、今後もそのような施策の中で検討していただければありがたい。

<構成員7>

フォークリフトの電動化や倉庫の屋根を利用した太陽光発電を推進するために、支援策が活用できれば、脱炭素化の目標に近づけるのではないかとと思われる。

<構成員8>

2024年問題の労働規制の中で、フェリーによる貨物輸送を推進している。徳島から帰る便は貨物がないため、出すばかりではなく帰りのことも考えれば、港湾事業者に投資ができるのではないかとと思われる。

<構成員9>

太陽光発電をいろいろな形で導入しているため、このような方針に少しでも協力できればと思っている。また、予算面での問題があるため、なかなかシフトできない部分はあるが、支援

策があるのであれば、既存の船舶やこれから造る船舶を脱炭素化へ導いていただけると、船社としては非常に助かるのではないかとと思われる。

<構成員 10>

脱炭素化に向けて、事業者は支援が必要であるため、ますますその支援をお願いしたい。

<構成員 11>

温室効果ガスを実質ゼロにするのは、単体の商工会議所や企業が立てる目標ではない。国をあげて、十分な支援体制を整えてもらいたい。

<座長>

今回は、協議会の方向性、国の方針、今後の予算を含めた内容であった。カーボンニュートラルについての傾向を含めて、いろいろな施策が動いていることをご理解いただいて、ご協力していただければと思う。

以上